

図書案内

2019年 1月号

担当 1-4H 作道 1-5H 木倉

こころが温まる本



寒い季節がやってきましたね。ぐずついた空模様で外出をためらうこの季節は、室内でこころが温まる本を読むのはどうでしょうか？ 今回は図書委員オススメの作品を4冊紹介します。勉強の合間や疲れがたまっているとき、読書でリフレッシュしてみても？ 図書館にて貸出しています。

あなたは、誰かの大切な人 原田マハ／著

「自分は誰かの大切な人だ」と感じることはありますか？ この作品の主人公たちは、家族や友人たちの言葉から、自分にとって大切な人の存在や、「自分は誰かの大切な人だ」ということに気付いたりします。様々な立場に置かれた主人公たちは人間の温かさを再確認していきます。こころ温まる6作品の短編集です。この作品を読み終えたとき、著者の伝えたいことが見えてくるはずです。ぜひ読んでみてください。

今日を生きた。だから、明日も生きよう。

おそろし 三島屋変調百物語事始 宮部みゆき／著

江戸は神田、筋違御門先の三島町の一角。そこにある袋物屋、三島屋の娘・おちかは百物語の聞き集めをしている。「黒白の間」には、今日も語り手がやってきて、どこか優しく、どこか怪しい話を残す。紫陽花が咲き乱れる無人の屋敷に出る幽霊の話には、老夫婦とバケモノの間に生まれた愛が隠れていた。今は無き、温かい人々とこの世に在らざるものたちとの関係に、おちかだけでなく読者のこころもゆっくりと溶けていく。

あたしにも、おたかちゃんにも、帰りを待ってる人がいるからね。



僕とおじいちゃんと魔法の塔 香月日輪／著

陣内龍神は“家族”に、“正義”に、“普通”に違和感を抱いた。彼をそれから解き放ったのは、おじいちゃんの塔との出会い、すなわち“非日常”との出会いだった——。幅広い年代の人に愛される香月日輪作品の一つであるこの話は、どこかハッとさせられる話が詰まっています。誰もが幼いころ考えたことのあるような素朴な疑問を思い出し、深く考えさせられる一冊。強烈な個性を持ったキャラクターがたくさん出てくるところも魅力的です。

怖くない。怖がらなくてもいいよ。きっと何もかもうまくいくよ。僕はそうなるって自信がある。

不安や寂しさは、寒さをより辛く感じさせる？

冬の寒い日は、どこか「人恋しく」なるものですね。ひとりで辿る帰り道や、ふとした瞬間の指先の冷たさ……。このように人が「寂しさ」を感じているとき、体感温度は実際に下がっているようです。カナダのトロント大学で行われた認知心理学者による実験では、「社会的な孤立・孤独感・寂しさが体感温度を下げる」という結果が発表されました。こころが寒いと体も寒いとは！！ 何とも面白い研究結果ですね。

また、この時期に気をつけたいのが体調管理。特に風邪は万病のもとと言われます。予防法として、外出時にはマスクをし、外出後には手洗い、うがいを行います。また、くしゃみなどが出る際には鼻と口をティッシュや衣服で覆うなど咳エチケットを励行してください。寒い日が続きますが、こころも体もあたためて、元気に頑張っていきましょう！

【記事出典】 <https://hotnews8.net/love/loneliness-and-cold>
http://www.jrs.or.jp/modules/citizen/index.php?content_id=46

ちょっと今から仕事やめてくる 北川恵海／著

ブラック企業に勤め、ついに自殺を試みた隆は、元同級生と名乗る男「ヤマモト」に助けられる。ヤマモトと関わるうちに生きる希望を取り戻していく隆。しかし、実はヤマモトは同級生ではなく赤の他人だった。

現在、社会問題となっている“ブラック企業”をテーマとし、ひとりの青年の成長を描いたこころ温まる物語です。読み手に「頑張ろう」と思わせてくれる作品となっているので、ぜひ手にとってみてください。

人生って、それほど悪いもんじゃないぞ。

